



学校法人永原学園
さんこう
児童クラブ通信
令和6年10月発行
— 第7号 —

【三光幼稚園】
TEL: 0952-31-0753
【さんこう児童クラブ携帯】
TEL: 090-7430-1312

【2学期も、宿題、頑張っています(*^▽^*)】



【子どもたちの工夫を紹介♪】

今のブームは「段ボールハウスを作って生活する」こと♪
夏休みからずっと大規模工作に夢中の子どもたち。最近では、引っ越しをし、それに伴って一段と家具を充実させて生活を豊かにしています！
友達と相談しながら、リフォームするのが楽しそうです(*^▽^*)

「 秋の到来 」

猛暑、酷暑が9月迄も続いた今年の夏。朝夕は、ようやく涼しい風が頬を撫でてくれるようになりました。こども園も児童クラブも日中は室内で過ごしていましたが、思いっきり外遊びを楽しめるようになり、持て余していた体のエネルギーを子ども達は存分に発散させています。

1年生から3年生まで揃った今年は、クラブに到着すると、宿題を済ませようとながらんでいる子ども達が増えています。良い習慣が続くことを願っております。保護者の皆様も、「がんばっているね♥」、「宿題が終わっていると家で楽ちんだね♥」等、認めて励まして頂くと幸いです。

最近の様子が、右側に掲載されていますが、小学生になると日頃の観察眼が作品に表れています。友達との会話が刺激となって、リアリティな表現力に感心させられています。10月は、室外・室内遊びを十分楽しめよう、環境づくりに配慮していきたいと思います。季節の変わり目です。体調管理にも気を付けましょう。

10月の目標

「SDGSを意識しよう！」

工作が大好きな子どもたち。その中で、材料や作ったものを大事にできる心も育てたいです。「材料が揃っている、なくなっても補充されている」。もちろん、環境として充実させておきたいところです。しかし、時には、物がなくなることを経験することも大事であることにも気づかされました。そこで、必要な分だけ使うことや友達と分け合うこと、再利用できるものは再利用する等、今月は、特に意識して、今後につなげられるように、子どもたちと頑張りたいです(*^▽^*)

←①玄関の扉と表札

段ボールに穴をあけ、紐を通して固定した扉。そこには、なんと住んでいる人の名前が書かれた紙が貼り付けてあります。たまに、訪問すると、家主が出てきてくれます♥



②冷蔵庫&冷凍庫→

アイスの空き箱を入れることでリアリティが増えています♪硬い段ボールにも一人で切り込みを入れ、形を整えることができるようになっています！



←③ミルク販売機

段ボールで作ったお風呂の横に設置し、お風呂上りに飲めるようになっています！



④まくら↓

ティッシュの空き箱を組み合わせた広いまくら。痛くないのかなあ(*^▽^*)



⑤お風呂の蛇口↑

非常水道でお馴染み。牛乳パックとストローを組み合わせ遊べにも活用！



⑥テーブル→

段ボールに包装用虹色セロファンを被せておしゃれにできています♪
上には、いつお客さんが来てもしっかり料理が準備されています♥

経験から学び、想像したものを表現する楽しさを感じられるように子どもたちが困ったときはすぐ協力できるよういつでも目配りをさせておきたいです！

10月の学童児童数

	在籍者数	休所者数	利用者数	そのうち新規入所者数	7月末退所者数
1年生	5	1	4	0	0
2年生	12	0	12	0	0
3年生	12	1	11	0	0
計	29	2	27	0	0

寄稿：西九州大学・西九州大学短期大学部の窓から

「アスリートとあそび」

スポーツ健康福祉学科・准教授・市川浩

日々の暮らしや意思伝達、スポーツなどの活動のために、われわれは多種多様な身体運動を行います。この多くの運動パターンの基本となる動きのことを「基本動作」といいます。幼児期にできるようになる基本動作は、立つ・這う・跳ぶ・つかむ・回る・持つ・投げる・・・などなど84種類にも分類できるそうです。こんなにたくさんの動きを大人が1つ1つこどもに教えることはなかなか大変ですし、きっとこどももそんなには付き合ってくれないと思います。日常生活を送ることで身につく動きもありますが、あとは「あそび」の中でこどもたちが自由に楽しく身に付けていくことが自然な流れだと考えます。幼児期以降になるとこれらの基本動作を組み合わせたり、それぞれの動きを洗練させたりすることで、より高度な運動ができるようになっていきます。ただ走るだけでなく鬼ごっこで他者を追いかけながら走るようになるわけです。かっこいい動きや巧みな動きができるようになるためにも基本動作が必要となるわけですが、転びそうになったときに素早く一步を踏み出すことで転倒を回避したり、上手に手をついて顔や頭のケガを避けたりするためにも重要になってきます。

ヒト以外の動物の中には生後間もなく見たり立ったり歩いたりできるものもいます。つまり生まれつきできることがあるわけです。しかしヒトは生まれてしばらくの間は、自分だけではほとんど何もできません。生後学習することによっていろんなことができるようになります。生まれつき（遺伝による）差がないわけではありませんが、上手に身体を動かす能力は生まれてからの経験によるものが大きいと考えられています。

こどもの体力低下が社会的にも取り上げられるようになって久しいですが、スポーツや外遊びに不可欠な“3つの間（時間・空間・仲間）”の減少がその要因として指摘されていました。さらにコロナ禍によってより一層状況が悪化しました。これらはこどもたちが様々な動作を身に付ける機会も減少させ、運動の上達やケガ回避にも影響したと考えられます。

こどもが楽しく様々な動きを身に付けるための「あそび」は大切な時間だと考えます。大人が専門的な指導をしたり評価したりする必要はなく、そっと見守るあるいは一緒にあそぶことでこどもは自然と基本動作を身につけ、その引き出しを増やしていきます。アスリートからこどもの頃によくあそんだ話を少なからず聞くのは偶然ではないと感じています。